

お茶の間力

日本には「間」という言葉があります。場所のあいだ、時のあいだ、心と心のあいだ。これらを全部含んだことが「間」です。間が悪い、間違い、間をとりもつ、間を読む。こうした言葉の使い方。私たちは「間」の持つ価値を感じます。

今回は茶によるコミュニケーションについて考えます。

しかし、コミュニケーションというとどうも情報をモノのようにキヤッチボールしているかのように聞こえます。むしろ、

茶がこしらえる間とは何か。人々は茶という方法で

どのように間をしつらえてきたのか。そのような視点から

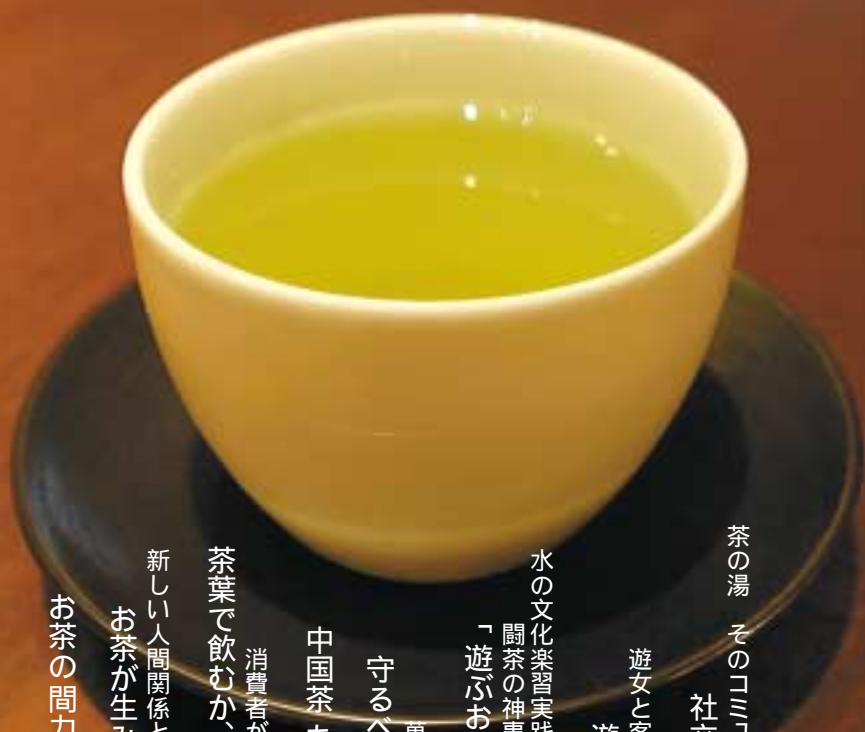
お茶を取り上げてみたいと思います。

間をつくり整える力

これを間力。まりよく と呼ぶならば。いま求められるのは

コミュニケーションというよりも。間力なのかもしれません。

茶の間力がつくる人とのかわり。は。どのよつな社会を生むのでしょうか。



水の文化 16号 2004年2月

特集「お茶の間力」

茶の社会史 角山 榮 2

茶の湯 そのコミュニケーションの仕掛け
社交をつくる喫茶文化 熊倉 功夫 4

遊女と客がつくるサロンの一瞬
遊ぶ芸から見る芸へ 佐伯 順子 10

水の文化 染習実践取材 群馬県中之条町
闘茶の神事を伝えるお茶講保存会
「遊ぶお茶」は現代の「講」 編集部 14

菓子における伝統と革新
守るべきはもてなしの心 黒川 光博 20

中国茶もてなされ写真紀行 編集部 22

消費者が緑茶に感じる価値とは
茶葉で飲むか、ドリンクで飲むか 水野 俊作 26

新しい人間関係とライフスタイルの行方
お茶が生み出すもてなし関係 角山 榮 30

お茶の間力もてなしのすすめ 編集部 34

水の文化書誌 茶 古賀 邦雄 38

里川 研究 掲示板

インフォメーション 43